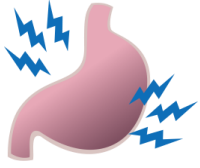


心・体・暮らしに寄り添う クリニックちくさヒルズ通信 NO.7



コロナ禍でのお家生活で 胃がもたれるって？ それって食べすぎ、呑みすぎ？

2021年9月号



<胃もたれとは>

胃もたれとは、胃での消化が遅くなって、飲食したものが胃の中にいつまでもとどまって起こる不快感を言います。その原因の多くは食べすぎ、飲みすぎですが、心理的なストレスによって胃の消化機能が低下し、胃もたれが起こることもあります。このほか、お腹が張る(腹部膨満感)、食欲不振、むかつき、胃の痛み、胸やけなどを伴ったり、胃もたれが長引くような場合は、何らかの病気のサインの可能性もあります。

<胃もたれのメカニズム>

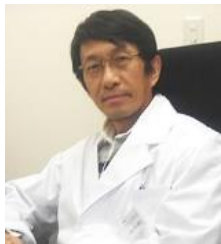
通常、食べものは、その内容によっても違いますが、1~5時間ほど胃の中にとどまって消化された後、小腸へ送られます。ところが胃のはたらきが弱くなっていたり、胃の消化機能をオーバーするような食べもの、飲みものが入っていたりすると、消化が遅くなり、胃もたれと呼ばれる状態になります。なお、「もたれる」というのは、ムカムカする、胃が重い、お腹がふくれたような感じ です。

胃の消化機能を低下させる原因としては、暴飲暴食による消化不良、香辛料やアルコールなど刺激物の摂取、ストレス、タバコなどが挙げられますが、このほかに睡眠不足や生活の乱れなどの不摂生によって自律神経の機能が乱れると、やはり胃の動きが悪くなり、胃もたれを起こすことがあります。

しかし

こうした一次的な胃もたれであれば、その原因を除去することで回復しますが、いつまでも症状が続いたり、お腹が張る(腹部膨満感)、食欲不振がある、胃が痛む、痛むような胸やけなどがあるといった場合、胃がんやポリープ、潰瘍など胃や食道に病変がある(器質性)可能性もあるので、一度、検査を受けたほうがよいでしょう。

もう一つ、注目しなければならないのがピロリ菌の存在です。ただの胃炎？ 胃の不快感がくりかえすとき、ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)が原因の一つとして疑われています。ピロリ菌が胃炎や胃潰瘍などの胃の病気に深く関わっていることが現在では明らかにされてきました。



当クリニック
林衆治院長

ピロリ菌の検査には、内視鏡を使って直接胃の組織を調べる方法と、呼気(吐く息)を採ってその中に含まれている二酸化炭素を調べる方法、血液や尿で抗体をみる方法の三つがあります。患者様に適した最適治療法を選択して提供いたします。一度ご相談にご来院ください。

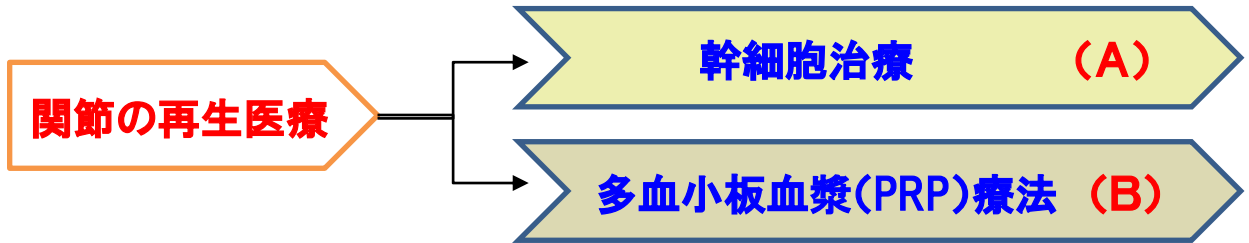


当クリニック整形外科医師
岩田 久 先生

当クリニック膝関節専門医が あなたの悩みに応えていきます



当クリニック整形外科医師
出家 正隆 先生



加齢と共に生じる骨関節の摩耗により、痛み・疼痛や運動障害に悩まされる疾患が多く存在し、上記のような症状の疾患に対する再生医療は、関節内の疾患(変形性関節症など)、関節周囲・靭帯の疾患(関節周囲炎など)、その他に分けられています。クリニックちくさヒルズでは、**変形性膝関節症の再生医療を希望される患者様が圧倒的に多く、これまで再生医療学会でも多くの発表を行っています。**

関節・スポーツ外傷は、通常の治療法やリハビリで、一度は痛みがなくなりますが、再発しやすい病気です。根本的に治すためには、患部の炎症をとり、同時に組織修復をできるだけ早く行うことが必要です。

幹細胞治療は患者様の腹部より採取した脂肪から細胞を抽出し、培養します。増殖させた細胞を点滴または注射により投与します。幹細胞は成長因子の分泌や細胞の分化誘導で、損傷にある部位の修復と再生の効果が期待できます。

また、多血小板血漿(以下PRP)は患者様の血液を用いて、特殊な機械で濃厚な血小板液を作成したものです。血小板から分泌されるサイトカインが炎症を抑えることにより疼痛緩和が期待できます。また、PRP治療より少し価格を抑えたPRP融解液治療を開始いたしました。再生医療を用いた治療の第一歩としてPRP融解液治療をご希望される患者様が多くいらっしゃいます。ご興味のある方ぜひ一度、お気軽にご相談ください。

<説解>

(A) 幹細胞治療

患者様ご自身から脂肪を採取します → それを当クリニック内の培養施設で脂肪から幹細胞を抽出して幹細胞を増殖させます → そして増殖された幹細胞を患部関節に注射する治療方法です

(B) 多血小板血漿(PRP)療法

患者様ご自身から採血をします → それを当クリニック内の細胞加工室で血液からPRPを分離し血小板濃縮液を作成します → そしてその液を患部関節に注射する治療方法です

健康の知恵袋



秋の夜長、長時間の読書で注意したいのが眼精疲労です。目が重い、痛い、かすめ等目の不調の他にも頭痛や胃こりなどの症状を伴うこともあります。蒸しタオルなど目に当てると血流がよくなりますよ。お試しあれ!

広報紙 「クリニックちくさヒルズ通信」
発行 医療法人財団榎順会 クリニックちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F
ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com
編集・発行 医療法人財団榎順会 クリニックちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)
発行日 毎月10日

